

伝えたい

まちの遺産

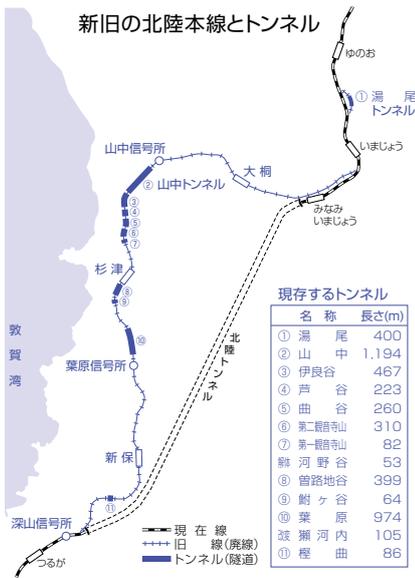
旧北陸線の鉄道遺産

「魔のトンネルと

スイッチバック

明治二十九年（一九六二）に開通した旧国鉄北陸線の敦賀～今庄間（通称「杉津線」）は、昭和三十一年（一九六二）、北陸トンネルの開通により廃線となるまでの六十六年間にわたり北陸の産業・経済の発展に大きく貢献しました。

日本最初の鉄道開通は明治五年（一八七二）の横浜～新橋間で、二番目は明治十年（一八七七）の神戸～大阪間、三番目が旧北陸線で、明治十七年（一八八四）の敦賀～長浜間開通に始まり富山までの延長工事が進められました。しかし、「杉津線」と呼ばれた敦賀～今庄間は、山また山の難所であり、木ノ芽峠を避け敦賀湾寄りの山腹から山中峠を貫通させるルートが採用されましたが、数多くのトンネルを掘り進まなければならず、その苦労は並大抵のことではなかったようです。日清戦争による建設資材の不足や、水害・落盤・火事などの事故によりトンネル工事が難航し、着工から三年後の明治二十九年（一九〇六）に貫通しました。



待避ができないため、新保駅と葉原・山中両信号所には列車の折返し線と待避路線をあわせ持つ「スイッチバック」という施設がありました。これらは、後の北陸自動車道建設で埋まっていきましたが、山中信号所のスイッチバックと大桐駅ホームの遺構が残っています。

「杉津線」の敦賀～山中峠間及び湯尾峠には、レンガと石で積み上げた十三基のトンネルが掘られました。なかでも葉原～山中間には十基のトンネルが連続しており、坑内に充満した蒸気機関車の吐く煙が窓を閉めても入り込み、夏はサウナ状態だったようです。機関士にとっても、走行に細心の注意を払いながら煙と熱の灼熱地獄に耐えなければならず、この区間は「魔のトンネル」と呼ばれていました。現在、単線レールは撤去されましたが、馬蹄形の石積は当時のまま残っており、生活道路として再利用されています。



山中トンネル

スポーツの秋！ 体を動かすと心も動き出す♪



ウォーターランド通信

ウォーターランド南条 ☎ 47・3711

★教室紹介③（プール）～生活改善水中歩行～

水の特性を活かした水中運動で膝、肩、腰痛の解消や姿勢の矯正を行います。運動に不安がある方は、ぜひ、ご参加ください。
○毎週木曜日 14時20分～



★教室紹介④（スタジオ）～ジャンブルダンス～

様々なジャンルのダンス（ジャズ、ヒップホップなど）を取り入れ、全身でリズムを楽しむ教室です。
○毎週水曜日 17時～子供（初心者向け）
18時～一般（上級者向け）



--- 営業時間について【10月～11月】 ---

火・木曜日 13:00～21:00 水・金曜日 10:00～21:00 土・日・祝日 10:00～17:30